

上田市教育委員会 1 月定例会会議録

1 日 時

令和 3 年 1 月 1 9 日（火） 午後 3 時 0 0 分から午後 3 時 5 0 分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ 5 階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	北 沢 秀 雄
委 員	横 関 妙 子
委 員	綿 谷 憲 一
委 員	森田 小百合

○ 説 明 員

中澤教育次長、池田教育参事、山賀教育総務課長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、西嶋人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、小泉中央公民館長、村山城南公民館長、浅野上田図書館長

1 あいさつ

今回の定例会は上田市に現在レベル4が出ていることを考慮し、コロナ対策として出席する所属長を限定させていただいた。また、このようなときなので開催時間をできるだけ短く能率的に進めさせていただくことをお願いしたい。

2 協議事項

(1) 第二次上田市子ども読書活動推進計画について（上田図書館）

○資料1により浅野上田図書館長説明（要旨）

1 2月の定例教育委員会で北沢委員から計画書の立て方、また課題に対して取組が分かるように等のご意見をいただいた。今回送りした資料は、修正して赤字で記してあるのでご覧いただきたい。また、前回A4の資料概要書で説明させていただいたが、本日は計画書の主な部分について説明させていただきたいと思っている。今後の日程等を記しているが、2月には市としては計画を決定していきたいと考えている。本日いただいたご意見も踏まえながら、計画を策定してまいりたいと思う。

それでは、第二次上田市子ども読書活動推進計画（素案）という冊子の方をご覧いただきたい。最初に目次、1ページには第1基本的な考え方がある。

第1基本的な考え方

- (1) 計画策定の趣旨について、前段に法律の基本理念、2つ目の段落目では読書活動の取組に課題があることで、令和元年から単独事業を実施したり、あるいは1人あたりの児童図書貸出冊数の調査を行ったり等、各種施策に取り組んできたが一定の成果が見られるところもあるが、その一方で図書館利用者の減少であること、学校図書館のエコールの利用の減少であること、課題も見受けられること、そのような取組になっている。また、近年のインターネット等の環境もあり、読書活動推進がますます重要であるということで最後の段落で国、あるいは県の直近の決定を踏まえて策定をしてまいりたいところである。
- (2) 計画の基本方針については①から③がある。各取り組みが行われる中で共通する基本的な考え方を集約している。①読書活動の機会の提供は、読書活動のきっかけ、意欲、習慣化といった機会の提供。②読書環境の整備では、資料の充実、人材育成、関係機関との連携といった読書活動の整備について、2ページでは、③読書活動の意義や大切さの普及・啓発ところでは、記載どおりの啓発ということである。(4)の計画の期間については5年間である。(5)取組目標の設定というところで、こちらの設定については、県の計画を参考に設定をした。取組目標はいずれも増加としたところである。何冊増えたから読書活動が推進されたのかということ判断するのは難しいこともあり、推進状況を客観的に把握する取組目標として設定をしている。

第2これまでの主な取組と課題

- (1)家庭・地域、(2)図書館、(3)学校がある。4ページには(4)幼稚園・保育園・認定こども園についてそれぞれの主な取組と課題を記載している。

第3子ども読書活動推進のための取組

- (1) から(4)について取組内容を記載している。
それが9ページまで続いており、10ページ以降は用語集、資料編ということである。

峯村教育長

では、委員の皆さんからご意見等をいただきたいと思う。

森田委員

いろいろと課題が記されているが、1点目は、現在の図書館において一番の課題をどこに焦点を当てているのか。2点目、図書館の取組3ページ(2)の主な取組、エ 中学生、高校生の受け入れを積極的に行い、のところで、特に読み聞かせのところでは中学生・高校生だけではなくて、例えば、地域の方々に積極的に入っていただいて読み聞かせの場づくりをすることは、多層の人たちとコミュニケーションをとることにもつながっていくと思う。そのあたり現状はどのようにされているのかを教えてください。

浅野上田図書館長

図書館においてどこが一番課題であったかという、子ども読書だけではなく、図書館全体の貸出にかかったさまざまな活動をする中で、やはり人口減少ということもあるが、利用者が減ってきている、貸出冊数も減ってきている状況がある。できるだけ1人あたりを置き換えて増やしていかなくてはと思っている。やはり、利用していただかないと図書館としての存在価値がなく、いろいろな活動する中での数値として表われているところであるが、まずは利用者の利用の状況、貸出の状況、そのあたりのところは大きな課題である。もう1つ、読み聞かせについてはそれぞれ市内に図書館があり、図書館でも読み聞かせを行ったりお家でどのような読み聞かせをするのかそういったような講座を開いたり、図書館以外でも例えば、子育て支援センターのようなところで読み聞かせを行ったり、地域によって違いはあるが、父兄の方やボランティアの方が学校へ入っていただいている。

森田委員

1点目についての貸出冊数が少ないという課題について、本を読めと言われてもなかなか皆で読書習慣を作りましょうということで貸出冊数が増えるものではない。例えば、生涯学習のところでも出てくるが、そのような活動と合わせもって探究・調査などと連携しながら、図書館にはこのようなジャンルのところがこれだけ所蔵されている等、学びの場の部分と連携した中での提案や政策が必要ではないかと思う。そのほか、読み聞かせは以前から上田市は熱心に取り組まれているが、さらに地域の人たちや高校生、大学生も巻き込んで、これからますます活発に進められればよいと思う。

横関委員

策定にあたっては今までどのような経緯で策定されたのか。どのような経過でどのような会議を開催してきたか教えてください。

浅野上田図書館長

まず、市内の図書館の担当者が集まり現状の把握と課題を洗い出して、あわせてこちらの計画に係る教育委員会の学校教育課であったり、生涯学習・文化財課であったり、教育総務課であったりと関係する課に現状と課題を出してもらった。それを出してもらったところで関係者に集まってもらい、計画、素案を策定し、素案についてご意見をいただくことを内部的に行った。その後、昨年12月に内部的に素案として固めたものを12月には図書館協議会、1月には社会教育委員会、教育委員の皆さんにも説明をさせていただき今に経っているところである。

横関委員

ほかの自治体だと教育委員会に半年前ぐらいに素案なり意見を求めている自治体もある。そのようなこともあって、ほかの自治体の計画を参考にしたなどのことはあるか。

浅野上田図書館長

直接問い合わせをしたことではないが、私も今年度にくたところなので、ほかの自治体の計画はどのような計画があるのかということはインターネットでいくつか検索をして調べてみた。

横関委員

他のある自治体では、「いろいろな立場の皆さんに計画の趣旨を理解していただき、協力していただくため、表現や表記をなるべく分かりやすいように心掛けて」というように記載している自治体もある。やはりこの上田市の計画だと見て皆さん実行してくださいといったときになかなか分かりにくいというのが現状だと思う。例えば、ほかの自治体では写真が入っていたり、ブックスタートの図解をしていたりと計画が分かりやすく提示していることがある。誰が見ても実行できるような推進計画でないと、いくらご家庭で協力をお願いしますといってもどのようにしてよいか分からないということがあるので、できればもう少し早くこちらに聞いていただければよかったと思う。その中でデジタル図書について、教科書もデジタルになってくる、コロナ禍でデジタル図書館がだんだん増えてきている。7月には100自治体、1月には130自治体が、今まで必要がないとしてきた自治体もすでに必要だと考えを変えた自治体も増えているといわれている。それも含めてその可能性も考えなければならないのではないかなと思う。また、新型コロナウイルス感染防止対策の例を読書環境のところへ写真入りで入れている自治体等もある。ソーシャルディスタンスを守っていかに安心して読書ができるのか、そのようなこともそちらに盛り込まれているところもある。この新型コロナウイルスは、4、5年かかる、もしくは10年といわれている。その中でこの5年計画の中にそのようなことが記されていないことが残念に思う。今から入れていただければ、先を見据えて電子書籍や今盛んに言われているSDGsのことなども触れていただけたらと思う。障がいがあっても子どもたちが楽しめる読書も考えて、新しい本の形や本の情報共有の仕方を研究しながら、この推進をしていくことも一言入れていただけたらと思う。

そのほか、このような冊子には、はじめに教育長や市長、教育委員会等のあいさつが入っている自治体もある。例えば「未来へつなぐバトン」、「豊かな感性、想像力を生む」などと記されているものもある。上田市は子どもたちにどのような姿を望むのか。今は伝える力や思いを伝えるということが盛んに言われているので、ここの中にそのような思いが感じられるとよいと思う。

峯村教育長

たくさんのご意見をいただいた。これは途中なのでこれから皆さんのご意見も十分に盛り込んでいきたいと思う。浅野館長、何か今のご意見に対してないか。

浅野上田図書館長

今いただいたご意見の中では、冊子の中にごあいさつというような形で載っているものも拝見をしている。先ほどの電子書籍であるとか、もちろんこれからそういった時代であり、自治体も長野県内では高森町だけと思うが、コンテンツがこれから増えていたり、費用負担が減ったり、どこまで紙でどこまで電子書籍なのか、いろいろと検討することも必要があるかと思

うが、そうした時代の流れや方向性なんだろうと思う。この計画の中に盛り込めるかどうか検討させていただきたい。

北沢委員

今、浅野館長のお答えになった方向で結構だと思う。この読書活動推進計画は今までの経過からすると、内容がソフト面に偏っているのは仕方がない。ただ、資料を読んでいると、「図書館の改築」等が頭に浮かんでくる。今年の段階では、改築等にかかわって記述しなくてもいいが、今後はハードの面の反省や課題を入れていただきたい。デジタルコンテンツやそれに係るもの、例えば、「施設面の使いやすさや使いにくさ」「映像コンテンツの整備状況」「上田市内にあるいくつかの図書館ネットワークの不具合」等である。また、図書館の改築計画に起因するものに着目した反省、課題というものがあってよいと思う。そのような観点も大事にしていきたい。

峯村教育長

ご意見として伺わせていただく。

綿谷委員

資料にも記されているように情報環境が刻々と変化している。子どもたちが何に興味があるのか、読書に対しての興味というものはどうなのか。実際のところ、今子どもたちのほとんどはスマートフォンをもっていて、いつでも見られる。学校から帰って家に戻ったときに、図書館の本を読むかスマートフォンを見ている。そうすると、読書はそれが図書館利用という大きな影響もあると思う。子どもたちも多様化されている中での興味というものを調査した方がよいのではないか。やはり、年々利用者が少なくなることや貸出が減少してくるそのような傾向がみられる。そのような中での対策としては、子どもたちの興味のもち方というものをどのように図書館に活かしていくのか。先ほどの電子書籍もあると思う。読書離れというほかにたくさん見ることができるものがある。そのようなものを図書館も使いながら、利用者を増やしてそのようなものに親しんでいく。いろいろ本を読んだり調べたりすることが図書館ではできると思う。本ではなくて、電子媒体というものが出てくると思う。そのようなところで子どもたちの興味を引き付けることをこのような中に盛り込んでいただきたい。

浅野上田図書館長

本を読んでもらうために、子どもたちに魅力のあるそういった発信や整備であることは大切なことだと思っている。国の方でも平成30年に計画をつくっており、その中で言っていることは、インターネット環境はどういった影響を読書に及ぼしているのかというものを調査・研究することになっている。そういった調査の状況も見ながら上田市としてもどういったことができるのかということは考えていきたいと思う。

峯村教育長

貴重なご意見をたくさんいただいた。今後活かさせていただきたいと思う。館長、いただいたご意見は十分に整理して盛り込んでいただきたい。

浅野上田図書館長

了承。

全員了承

3 報告事項

(1) 生涯学習シンポジウムの開催について（生涯学習・文化財課）

○資料2により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

資料2をご覧ください。こちらについては毎年開催していて、

2 令和2年度については、資料の裏面に第二次生涯学習総合計画で紹介されているページをカットしてあるが、「上田（信濃）自由大学」設立100周年を来年迎える。この取組は、全国的にも有名な取組であり、上田市にとっても財産であることを認識している。この100年にあたり上田自由大学について学び、考え、行動につなげる機会としたいことである。

3 テーマ「私たちの はてしない 物語 ～上田自由大学・若者たちの試み～」

4 日時 令和3年2月28日（日）午後1時30分～3時30分

5 場所 中央公民館3階大会議室

6 定員 50名 大学生、公民館職員、地域学習団体、地域づくり団体他

7 内容については、長野大学の学生さんから、上田において自由大学を研究されている長島伸一先生、あるいは小平千文先生に講師をお務めいただく。

今般、こちらについては信州上田学の手続きを申請中である。

今後は上田市の災害対策本部の方針をとり、事前申し込みという形で中止の想定をしながらケーブルビジョンでの収録、ホームページでの放送、ZOOMによるオンライン配信を検討中である。

峯村教育長

ただ今の件についてご意見等をお願いしたい。

よろしいか。

最後に説明があったように、今後、コロナウィルスの感染状況に応じて対応していく。

○全員了承

(2) 上田市成人式の延期について（生涯学習・文化財課）

○資料3により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

資料3をご覧ください。

1月10（日）の予定であった成人式については5月1日（土）ということで延期をさせていただいたところである。なお、当日は2に記載のあるような形で周知を徹底した結果、私も当日文化センターへ行き、特に勘違いをしてこられた方はいらっしゃらず、創造館でもそういった方がいないことを確認して市民の皆さんにお伝えできたことである。

延期の関係については3に記載があるように5月1日（土）に開催の予定である。なお、参考までに1月の開催予定だった市は今回16市あった。このうち延期、中止、実施は分かれたところである。延期は13市あった。中止は2市、長野市の1部が実施した。延期の13市のうち、5月に行う予定の式は上田市も含めて5市ある。8月が5市、未定が3市の状況でそれぞれ対応が分かれている状況であった。

峯村教育長

いろいろとご心配いただいた成人式は延期ということにさせていただいた。

ご意見をお願いした

北沢委員

長野市の一部の地域で成人式が実施されたが、1つの市の中で対応が分かれたことについてどう思われるか。

竜野生涯学習・文化財課長

非常に長野市も困ったと思う。なぜそういったことが起きたかという、長野市はそれぞれの地区の公民館でそれぞれの地域の住民組織で実行委員会をつくって、そこの方が開催の催事を任せている。市としては基本的にはそれについては関与しないというような形で行っているようで、篠ノ井の地区がギリギリになって中止を決めたり、若干混乱したのではないかと思う。幸い上田市においてはそういったことがなく、ご出席の皆さんのご理解をいただいたということは事実である。

北沢委員

上田市においては、成人式を一部で実施するようなことは、今年度も含め、今後どのようにお考えなのか。

竜野生涯学習・文化財課長

バラバラにではなく、基本的に教育委員会で最終的に決めて判断し、実行委員会と協議会で決めたものを1本化していきたいことはこれまでと同じ対応をしたいと思っている。

北沢委員

ではその方向でお願いしたい。

峯村教育長

今回の延期については、年末年始休業で医療機関が大変ひっ迫している状況であること、そのようなことを考えて、人命第一、市民の皆さんの健康第一ということで1月開催を断念したところだが、結果的には第3波が非常に猛威を振るっていることで延期にしてよかったと思う。

横関委員

5月にどのような状況になっているか分からないが、開催出来ればよいが、延期をするか、延期をしないで、例えば、オンラインだけにするだとか、それとも本当に中止してしまうかというところで、今後感染状況も分からないのでオンラインということも考えたりして、中止ということは極力ないようにしていただければ保護者としてもありがたいのでお願いしたい。

峯村教育長

ほかにはいかがか。

綿谷委員

横関委員と同じ意見だが、当然5月の段階でもっと感染拡大しているかもしれない、また終息しているかもしれない分からない状況。ただ、5月1日（土）を変更するとお盆などの時期になってしまう。いろいろなやり方を考えてもらいながら、5月に開催できるようにお願いしたい。

峯村教育長

振袖が着られる季節は、ギリギリ 5 月の最後でそれ以降は暑くなってしまい着られないこともある。

ほかにはいかがか。

よろしいか。

○全員了承

(3)令和3年ことぶき大学大学院生徒募集について（中央公民館）

○資料4により小泉中央公民館長説明（要旨）

毎年、充実した学習内容を学ぶために、受講生の方たちのアンケートなどを行いながら授業内容の見直しを行っている。授業については講師が一方的に知識を伝えるということだけではなくて、実体験を交えた自主的な学びやあるいは現地へ出向いての講習、実際にものに触れるという機会を多く取り込んだ内容である。特徴あるものとしては、新型コロナウイルスに関する知識を深める講座や、地域貢献ということでのボランティア等の最初のアプローチとして、こういったような貢献があるといったような講座を開催する。

お戻りいただいてA4の資料をご覧ください。ことぶき大学の募集人員について、お気づきになったと思うが中途半端な数で募集をかけているが、高齢者の方については新型コロナウイルスで非常に重篤な状況に陥りやすいということで従来の定員を少なくしている。その上で今年度は受講生の方に意思確認を行い、留年というのか2年生でも構わないということで残りの日数について今回については公募をかけることで、資料に記述等がなかったので誤解がないように申し上げるがたった5名で授業を行うことはしないことを書き足して募集をかけたいと思っている。公民館のスペースを考えて、特に3階の第2会議室は160名入ることが可能であり、定員80名といった場合でも十分にソーシャルディスタンスがとれる、スペースが確保できる部屋であるので、感染対策を慎重に検温や消毒等を行いながら実施をしたいと思う。現況ではこのような募集をかけていくわけだが、また状況に応じてあらたな感染対策を踏まえながら実施していきたいと思う。

峯村教育長

ただ今の報告について、ご意見等があればお出しいただきたい。

森田委員

ことぶき大学の入学資格は60歳以上でよろしいか。今後、いわゆるリカレント教育の要求が社会的に強くなってくるので、学びの場をいろいろな方々が求めるようになる。今までのような定年退職をして悠々自適にゆったりと時間を過ごすというような60歳以上の人は少なくなってくると思う。あらたに学び直したものをスキルとして、仕事なり活躍なりというものをもちたい、というある一定の目標をもって、学びたいという層が増えてくると思う。そのような視点に立った授業の組み立てや、学んだ先の資格を取得して次のライフステージがあるというようなことをことぶき大学の中で進めていければよいと思う。

小泉中央公民館長

非常に伝統のある名前であり今後も検討しながら行っていく。例えば、年齢についても60歳からであるが、もう少し引き上げて50歳からでも受講できるということなど。先ほど、委員からのご指摘があり、第2の人生ということでさまざまなスキルや技能等を兼備えた方がい

る。その方が地元やあるいは地域において、あらたな人生を歩むきっかけづくりを主においてカリキュラムを構成しているので、今後も方向性を定めてより多くの方が学べる場を考えていきたいと思う。

峯村教育長

学んだことを活かすということは、生涯学習の大事な根幹のひとつでもある。いただいたご意見は大事にしたいと思う。

ほかにはいかがか。

よろしいか。

○全員了承

（４）上田市短詩型文学祭６０周年記念作品集について（中央公民館）【説明なし】

○資料５

（５）スポーツ関係市長表敬訪問について（スポーツ推進課）【説明なし】

○資料６

（６）寄付の状況について（学校教育課 真田図書館）【説明なし】

○資料７－１ ７－２

（７）行事共催等申請状況について（学校教育課 生涯学習・文化財課）【説明なし】

○資料８－１ ８－２

（８）公民館だより（各公民館）【説明なし】

○資料９

峯村教育長

それでは、（４）から（８）までは説明がないが、ご意見ご質問等があればお出しいただきたい。

横関委員

新型コロナウイルス感染対策について、東御市は１月１３日から、上田広域圏の感染警戒レベルが４に引き上げられたことを受け、市立図書館や公民館などの開館時間短縮や休館をしている。１月末まで予定しているようだ。上田市はどのような対応をしているのか現状を教えてください。

中澤教育次長

ご承知のとおり上田市の場合、施設の運営についての判断はコロナ対策本部会において図って進めている。ただ、公の施設はいろいろな分野の施設があり、例えば、社会教育施設等についてはほかの公の施設に合わせる形で運営している。１つだけ違うのは、学校における体育館と校庭については市の教育委員会が内規をもっており、現時点ではレベル４になったときには翌日からお貸しすることを中止にするルールになっている。対策本部会の中では、市のほかの施設に合わせるべきではないかというようなご意見もあるが、子どもさんたちが使う施設であ

り、子どもさんたちが掃除をしている現状もある。子どもさんたちの命を守る視点に立つと今のルールでよいのではないかと思うが、ほかの施設との紛らわしい部分もあり、そのあたりの整合性を図るようにはいわれている。今後については、上田市は6段階のレベルのうちレベル4である。4の段階では県の方からも要請はきていないので、レベル5になったときにどのようにしていくのかというところで、いよいよ公の施設のあり方について具体的に本部会の方で決定されると思う。ただ、5になったからといって全て公の施設を閉じているところは少ない現状もある。そのあたりを含めて対策本部会の中で一定の方向性を見出しながら、今後対応していきたいと考えているのでご理解いただきたいと思っている。

横関委員

上田広域圏というと、東御市だけではなく上田市、長和町、青木村が入るが、横のつながりでどのようにしていくか足並みを揃えていただかないといけないのではと思う。東信管内の佐久市でも感染者が出て医療機関がひっ迫した状態があった。東信全体で感染を抑えていくことをどのように考えるか。時短も必要だと思う。特に、夜の公民館は利用者だけになるので、お年寄りの方がマスクをしないで活動されていることが多々見受けられる。管理者がいなくて活動する場合、夜間土日の活動をどのようにしていけばよいか、また公民館の横のつながり等で検討していただきたい。

峯村教育長

ほかにはいかがか。
よろしいか。

○全員了承

4 その他

(1) 令和2年度上田市城南公民館の活動について

○資料10により村山城南公民館長説明（要旨）

1 現況

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の教育・文化・スポーツ活動が停滞する中、その流れを止めないために感染防止対策を講じながら、地域の社会教育や住民交流の促進、継続に努めている。

公民館の利用状況は、4月9日から5月31日まで休館し、6月1日から利用を再開したものの、城南公民館の利用者数は大幅に減っている。利用人数制限や利用者団体の利用の控え、文化祭等の大きな行事は中止をしているので大幅に減少している。6月の再開後、12月までの利用者数は15,816人となっており、前年度同期間に比べて50.9%と大幅に半減している状況である。10月以降、利用人数制限はなくなったものの、利用者団体に感染への警戒感があるのに加え、全国的に第3波といわれるような状況の中で当面大幅な回復は期待できないと考えている。

主催事業について、現在は講座や集会等については参加者数を絞り、感染防止策を講じながら実施をしている。ただ、運動会や文化祭等の大きな行事については今年度は中止をしている。

2 重点事業の実施状況

城南公民館では地域の子どもたちの育ちを重点的に位置付け、さまざまな年代の方や各種団体と連携・協力をして交流、相互理解、共有の場となる各種事業を実施している。

(1) 城南地区青少年育成市民会議

例年 7 月に講演会、11 月に地域の子どもたちと大人が話し合いをする「城南地区子どもわいわい会議」を開催している。今年度の 7 月の講演会は中止としたが、子どもわいわい会議については地域のさまざまな交流温かい機会が失われる中で、何とか開催をしたいということで小規模であるが、オンライン参加を取り入れて実施をした。参加者については、会場での参加、ZOOM による参加、Y o u T u b e の視聴、この 3 つに分けて参加をいただいた。地域の皆さんは公民館に集まり、子どもたちからは学校から ZOOM で参加、本来、会場参加する市民構成団体役員のうち希望者の方に対しては Y o u T u b e で実施している。参加状況については資料の裏面に記載がある。合計 68 名の参加であった。例年では、小中学生 50 名、大人が 100 名以上集まるが、本年度は縮小して開催をしている。また、学校の子どもたちについては全校 ZOOM 参加の予定でいたが、生で参加をしたいと希望する学校があり、3 校についてはいろいろな公民館へ行くことで参加をしていただいたところである。

(2) 夏休みチャレンジ子ども広場

青少年育成事業のもう 1 つの目玉事業となる夏休みチャレンジ子ども広場がある。お盆が終わったあと、親は仕事へ行って家庭に子どもだけになるので、その時期に合わせて小学生の居場所を設けている。こちらの事業についても子どもたちの満足度が高く、保護者からも高い評価をいただいているが、密が避けられないことで今年度は中止とした。これ以外にも、毎年開催していた夏休みの子ども向け事業は全て中止としている。

3 重点事業以外の事業実施状況

(1) 地域課題や地域の歴史を学ぶ講座だが、現在主要としているものが、アからオまでの 5 つの講座があり、ア 上田市公文書館資料にみる地域の歴史講座（6 回）、イ 城南地区防災講座（4 回）については今年度からの事業になっている。

(2) 生活を豊かにするための講座として、コロナ禍の中で身体の健康やストレス解消の方法としている。また、夏休みにできなかったマグカップアレンジ子ども講座は、感染が薄れているところを見計らって実施をした講座である。今後についても、工夫しながら地域の社会教育や市民講座に努めていきたいと考えている。

峯村教育長

ただいまの報告について、何かご意見のある方はお願いしたい。

横関委員

城南地区青少年育成市民会議だが、オンラインを取り入れて実施されたということで、よかったと思う。やらないよりやった方がよい。どのようにすれば実施できるか。これからは今の時代に合わせて考えていかなければいけないと思う。ZOOM で参加された方たちのご意見等はいかがか。

村山城南公民館長

やはり生の方がよいという話もあったが、違う形で参加できて、子どもたちは ZOOM で参加したので、やはり自分の意見がいてよかったという感想である。

横関委員

ぜひ、いろいろなことの歩みを止めずにどのように行っていけばよいか、創意工夫していただいて、また夏休みチャレンジ子ども広場も密を避けてどのように行えるのか、そのときどき考えて歩みを止めないでいただきたいと思う。

森田委員

公民館活動は、子どもたちは自由参加ということができたと思うが、定期的に公民館に集まっていた高齢者や地域の方たちの中には、唯一、出掛ける日という、貴重な外出の機会になっていた方たちもたくさんいると思う。コロナ禍が長期化してくると孤独になって精神的に影響が出てくる高齢者の方たちもいらっしゃると思う。公民館に集まることだけではなくて、在宅でいながらも、どのような形で公民館が中心となって、そのような人たちと、つながることができるのか、つなぎ合わせることができるのか、そのような課題を検討していただきたいと思う。もちろん、ZOOM等の方法はあるが、インターネットが難しければ、お手紙や電話でもよいわけで、何らかの形でつながり合うことはできる。これからの社会でできる、どのような形でつながっていけるのかという視点で、公民館のあり方を考えるのがよいと思う。

峯村教育長

公民館に限らず、イベントが中止になることが起きている。教育委員会としてもアイディアを出して先ほど歩み寄る等、別の方法があるのではないかとのご指摘をいただいた。それは大事に考えながら進めていきたいと思う。貴重なご意見であった。

ほかには全体を通してよろしいか。

それでは以上をもって、1月の定例会会議を終了する。

○全員了承

閉 会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。
